

第4回京都市全員制中学校給食検討会議 会議録

1 日 時

令和5年10月16日（月曜日） 14時～15時

2 場 所

職員会館かもがわ 大会議室（第3～5会議室）

3 出席者（50音順、敬称略）

今川、梶浦、國重、塩見、園部、中山、藤下、山崎、山下、米田

4 事務局

教育委員会事務局体育健康教育室長、同室担当課長（給食）

5 議 題

- (1) アンケート調査結果について
- (2) 基本的な考え方素案（実施方式除く）について
- (3) 実施方式等を含む調査結果報告書（概要版）について
- (4) その他

<議題(1) アンケート調査結果について>

（事務局から資料1について説明）

委 員 給食を利用する主な理由（P.6）について、生徒は「家の人から給食を食べるように言われている」が最も多く、保護者は「家庭で弁当を用意することが負担」が最も多いという結果が出ている。保護者は栄養バランスの良いお弁当を作ってあげたいという気持ちはあるものの、負担を感じている家庭が増えてきたと改めて感じた。

委 員 栄養バランスに関しては、この間の会議や視察等を通じて、どのような実施方式の場合でも、栄養教諭によって、とても考えられていることが分かったため、心配はしていない。アンケート結果を踏まえ、着実に全員制中学校給食を推進いただきたい。

委 員 施設一体型小中学校の給食が良い主な理由（P.11）について、「みんなと一緒に食べられること」が生徒の上位に挙がっていることは嬉しく思う。また、生徒・保護者ともに「色々なものが食べられること」が多いが、家庭ではなかなか難しい点であり、栄養教諭が栄養バランスだけでなく、毎日食べても飽きない献立を提供していること

が評価された結果ではないか。

委員 中学校給食で特に大切にすべきと思うこと (P. 16～P. 17) について、「栄養バランスの良い献立であること」と答える生徒が多い一方で、実際の生徒の昼食内容等を見ると行動が伴っていないことは感じている。給食を教材として栄養バランスを学んでいければよい。

委員 同設問について、「栄養バランスの良い献立であること」が最も多いことは食育の成果ではないか。

委員 「栄養バランスが良い献立であること」や「安心・安全に提供されること」は大前提であり、最大2つまで選択可能な設問においては3番目、4番目に多かった「温かいこと」や「ゆっくり食べられる時間が確保されていること」が、本音の意見として出た結果だと考える。

委員 「栄養バランスが良いこと」や「おいしいこと」に加えて、「年齢に応じた必要な量を食べるための時間の確保」も給食に求められていることが読み取れた。また、給食を教材として栄養バランスについて学んでいくことや、小中9年間を通した食育についても、子どもたちが望んでいると感じた。

委員 「基本的な考え方」にある「安全・安心な給食」や「栄養バランスの取れた温かい給食」は、アンケート結果に裏付けられる形となったのではないか。アンケート結果も踏まえ、早期実現できるよう取り組んでいただきたい。

委員 昼食時間 (P. 20～P. 22) は、実際に食べる時間として「20分」と回答した方が多い。食缶方式の場合は、20分に加えて準備や片付けの時間も含めて検討していかなければならない。

委員 同じく昼食時間については、施設一体型の小中学校の方が長い傾向にある。全員制では、適切な昼食時間を設定するため、実際に必要な給食時間を学校として把握する必要があるだろう。

委員 アンケート結果から、生徒・保護者は「栄養バランスがよいこと」、「おいしいこと」、「温かいこと」を給食に求めていることがわかった。また、中学校給食を通して特に子どもに学んでほしいこと (P. 23) について、「食に関わる人々と食物への感謝の心」が保護者の上位に挙がっているが、これはまさに大切にしていきたい点である。

委員 同じく、「食に関わる人々と食物への感謝の心」に関しては、人間の基本的な営みとしての食の食べることや食育を通じて、道徳や生きる力を学んでいくことができる。

委員 保護者の朝の多忙さや、成長期における給食や食育の大切さがアンケート結果に表れていると感じた。栄養バランスなど、家庭では徹

底できないところをカバーできるのが給食の良い点の1つだと考える。

委員 アンケート結果は理想の表れでもあり、現実と乖離している部分がある。その理想と現実のギャップを埋めるや役割が給食だと思う。例えば、栄養バランスについて、栄養価を数値で出すなど細かな部分まで管理している家庭はほとんどないだろう。給食が栄養バランスの一つの目安となり、家庭での考えるきっかけになればよい。

委員 本調査結果は、生徒や保護者の願いが込められている貴重な資料となる。事務局においては、本資料を踏まえ、今後の検討を進めていただきたい。

<議題(2) 基本的な考え方素案（実施方式除く）について> (事務局から資料2について説明)

<議題(3) 実施方式等を含む調査結果報告書（概要版）について> (事務局から資料3について説明)

座長 本報告書は速報としての「概要版」であるとのことだが、正式な報告書と内容が変わることはあるのか。

事務局 本資料は、専門業者において調査結果を簡単にまとめていただいた速報の報告書である。専門業者からは、正式な報告書は、今後、詳細な説明や資料を加えたり、体裁を整えたりする作業を行うが、調査結果は変わらないと聞いている。

座長 本概要版は正式版と内容が変わらないとのことなので、概要版をもって議論を進めたいと思う。

座長 会議の進め方について、当初、10月ごろに第3回、2月ごろに第4回とのスケジュールが事務局から示されていたが、当初の予定を前倒ししているという認識でよいか。

事務局 スケジュールについては、アンケートの実施や専門業者の調査が迅速に進められていることに伴い、検討会議の開催も当初予定から前倒しさせていただいている。早期実施を求める保護者の声なども踏まえ、この間、スピード感をもって取り組んでいるが、単にスケジュールのみ前倒しするのではなく、他都市視察の実施など、内容の充実も図りつつ、委員の皆様におかれては議論を積み重ねていただいている。

委員 当初は自校調理方式や親子調理方式が良いのではないかと漠然と考えていたが、視察・試食や議論を通じて様々な懸念事項があること

がわかった。本報告書では、自校調理方式では実施時期が学校によって異なることや自校調理方式とセンター方式で約 180 億円の経費の差があることが示されている。子どもたちに温かい給食を、全校で早期に提供するためにはセンター方式が良いと考える。

委員 アンケート結果や本調査結果報告書を踏まえるとセンター方式がよいと考える。センター方式の場合、食中毒が発生した場合の影響の大きさに課題があるが、そもそも衛生管理基準のレベルが高い。また、調理釜ごとに学校を決めて管理することができ、影響を最小限に留めることができるため心配不要である。

委員 センター方式の場合、食育の充実を図るためにも、国の栄養教諭の配置基準を超えた配置を検討してほしい。

委員 財政面を踏まえると、センター方式が最も良いと考える。ただし、センター方式は情報や管理が一元化するメリットがある反面、個性が失われる懸念がある。給食室から香りがしたり、給食調理員が校内の給食室で作ったりする自校調理方式と、できあがった給食が運ばれてくるセンター方式では、印象が異なるのではないだろうか。自校調理方式を拡大できる可能性があれば、まずは自校＋センター方式でスタートし、その後、自校を徐々に拡大することも考えられる。

委員 自校調理方式も素晴らしいことは承知しているが、早期に実現するためにはセンター方式が最も良いと考える。

委員 当初は、給食室から香りがすることや作り手が見えること等から、自校調理方式が良いと考えていたが、調査結果を見ると、全校での自校調理方式や親子調理方式は、実現が難しい。

委員 できれば、自校調理方式が可能な学校は自校が良いとも考えるが、センター方式でも手作りを大切にしたり、衛生管理を徹底したりできると他都市から聞いており、本市の小学校給食で大切にしている「手作り給食」などの特徴を、センター方式でも取り入れられれば良い。

委員 全員制の開始時は、教職員の不安点等をフォローすることも重要だと思うため、多くの栄養教諭を学校に配置されれば良い。

委員 アレルギー対応や安心・安全の観点からはセンター方式が優れていると感じており、調査結果からもセンター方式が最も良いと考える。整備に当たっては、できるだけ教育活動に影響が出ないように、既存の配膳室を活用できる部分は活用しながら進めたい。

委員 調査結果を踏まえ、センター方式が良いと考える。全員制の導入に当たり、アレルギー対応を最も懸念していたが、センター方式でも対

応可能である。また、草津市のセンターを視察した際、子どもたちから、給食調理員やセンターの職員に対する「ありがとう」のメッセージが掲示されており、センター方式でもこのようなことは大切にできると感じた。

委員 視点は変わるが、センター方式の場合、多くの従業員が働くこととなるため、地域の雇用促進や活性化にもつながるだろう。

委員 最も早く全校で実現できることから、センター方式が良いと考える。センター方式の給食も試食したが、センター方式でも温かくおいしく食べることができる。

委員 食育に関して、現在、デリバリー方式で実施している中学校給食においては、給食調理員はいないが、配膳員が配置されており、生徒から配膳員に感謝の言葉を伝えたり、配膳員から生徒に対して「今日の給食はどうでしたか」などの声掛けがあったりする。このような給食に携われる方々との日常的な交流は、食育の重要な部分である。

委員 他にも、センター方式の場合は、防災や災害時の被災者支援の拠点施設としての活用も工夫できるのではないか。

委員 コストや実施時期を踏まえるとセンター方式がよいと考えるが、自校調理方式の良い点もあるため、一部検討することも考えられるのではないか。給食センターの設置に当たっては、近隣の地域の方からご理解いただきながら、早期に実現できるよう取組を進めていただきたい。

委員 自校調理方式は6校のみしか実施できないという調査結果を踏まえると、今後、自校を増やしていく可能性はない中、自校＋センター方式となると、学校負担や献立面など実施方式によって差が生じることから、センター方式で統一すべきだろう。

委員 センター方式の場合は、皆さんのご意見のように、栄養教諭の配置や小学校で推進している食育を中学校でも取り入れること、小学校給食の「手作り」の良さなど、自校調理方式の良さも取り入れることも、検討していただきたい。

委員 調査結果から、センター方式が良いと考える。前提条件に「配送エリアの中心付近に二ヶ所整備」とあるが、現段階で候補はあるのか。

事務局 現時点で特に候補地は決まっておらず、センター方式に決定すれば、速やかに検討していきたい。

座長 皆様の意見を踏まえると、中学校給食独自の献立、きめ細やかなアレルギー対応、学校負担など、センター方式は数値化できない定性面では優れており、更にコスト面からも、検討会議としてはセンター方

式が望ましいとまとめたいが、ご異議ないか。

(異議なし)

座 長 今後の進め方については、本日、実施方式についても検討会議としての意見を確認できたため、本日を最終回として今後は事務局へ一任することも可能である。しかし、できれば第5回会議を開催していただき、本日の「センター方式が望ましい」との議論が反映された「基本的な考え方」を最終確認したいが、よろしいか。

(異議なし)

座 長 事務局においては、第5回会議の開催について調整をお願いしたいが、よろしいか。

事務局 みなさまのご意向は承知した。改めて、第5回の開催について、日程調整をさせていただく。

<議題(4) その他>

(事務局から今後の予定について説明。)

<閉会>